|  |  |
| --- | --- |
| 学生のプロフィール：学部２年生Ａさん 女子 | 受け持ち患者のプロフィール：鈴木一郎さん(仮名) |
| ・１年時にコミュニケーション中心の実習を経験・解剖生理学は既習・患者を受け持って看護過程を展開するのは初めて・「患者さんの気持ちに寄り添ったケアができるように頑張りたいです。1年生の時の解剖生理や病態生理が苦手なので心配です。」 | ・５３歳　男性・直腸がんの診断を受け、腹会陰式直腸切除術＋人工肛門造設術目的で入院・今回初めての入院・手術で緊張している様子で、口数も少ない・仕事は営業職であり、喫煙歴あり、食事は不規則で飲酒の機会も多い・大きなプロジェクトの責任者であるため、できるだけ早く復帰したいと思っている。 |

【基礎・成人看護学】

事 例 A-１：レベルⅡ実習（課題１～３）

以下は、レベルⅡ実習で学生Ａさんが鈴木一郎さんを受け持った時の様子を抜粋したものです。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 実習 | 鈴木さんの様子 | Ａさんの様子 |
| 第１週 | 金 | 前日に入院。端坐位で窓の外を眺めている。 | 実習目標： 〇氏とコミュニケーションをとり、病態や気持ちについて理解する。《 指導者とともにバイタル測定 》Ａ：「体調はどうですか」(緊張している様子)鈴：「うん、まあまあかな。血混じりの便は続いているね。」Ａ：「そうですか…」鈴：「特に痛みはないけどね。ただ、手術の後は痛かったりするんでしょ？人工肛門ができるって言われたし…」Ａ：「そうですね・・・」(その後、指導者と鈴木さんとのやりとりを黙って聞いている)《 鈴木さんの部屋を退室後 》指：「どうでしたか？」Ａ：「・・・。何と言っていいのかわからなくて。」(その後カルテを見て情報収集している。鈴木さんの病室には足が向かない。) |
| 第２週 | 月 | 手術当日大きなトラブルなく手術が終了し、午後帰室。状態は安定。 | 実習目標： 〇氏が行う手術の流れを理解する鈴木さんと家族とともに手術室へ向かい、手術見学をする。術直後の観察は指導者とともに行い(見学)、この日の実習は終了。学生カンファレンスで、手術前に〇氏と会話した内容や手術見学での様子等を話し、他の学生と共有する。術直後の観察については、「看護師さんたちが忙しそうにいろいろなことをしていた」と話す。指導者から、看護師は何の目的でどんな観察をしていたのかについて振り返り、明日の行動計画を考えてくるように言われる。 |
| 火 | 術後1日目当日の夜間は痛みや機器の違和感などがあり、鎮痛剤を投与されたが、あまり眠れていない様子。状態は安定。午前中に清拭、更衣まではできたが、痛みが強くなり、離床までには至らず、再び鎮痛剤を投与した。 | 実習目標：術後の気持ちを理解する。行動計画に術後の合併症や観察項目が書いてあるが、どのように観察するのか、どのような状態だと正常なのかと聞かれると、ほとんど答えられない。術後の疼痛に関することも挙げられていない。指導者はＡさんに、鈴木さんのバイタルサインを測定し、状態の観察を行い安定していたら、清拭と更衣を行い、痛みの状況をみて可能であれば離床を促すことを伝える。術後初めての離床で注意することを確認すると、時間はかかるが、いくつか答えることはできる。指導者とともに病室に行き、バイタルサインの測定（マンシェットを巻くのに時間がかかる）、状態の観察を行う（見学）。鈴木さんは痛みが強く、離床できず。《 午前の報告 》バイタルサインは報告するが、観察したことについては内容にまとまりがなく、アセスメントに至っていない。また、痛みについては以下のように答える。Ａ：「鈴木さんは痛みが強くなってきて、起き上がるのも辛そうで…」指：「午後はどうしますか？」Ａ：「朝からとても辛そうだったので、午後は休んでもらいます。バイタルサインは、午前中測ったので、午後はやめておきます。」 |
| 実習 | 鈴木さんの様子 | Ａさんの様子 |
| 第３週 | 火 | 術後8日目状態は安定。本日は2回目のパウチ交換指導日。交換中、促されないと積極的に参加しない様子である。 | 本日は妻も来院し、一緒にパウチ交換の予定がある。実習目標： 〇氏がパウチ交換の手技について理解できる。　　　　　　　　ストーマの受容が進む。《 午前中、パウチ交換の場面 》鈴：「これ、家に帰ったら全部自分でしないといけないんだね。」Ａ：「そうですね。交換方法で難しそうなこととかありそうでしたか？」鈴：「いや、これ毎日自分でしていかなきゃいけないんでしょ？漏れたりしたら嫌だし、匂いも気になるし」Ａ：「そうですね。でも、匂いを抑える食べ物とかもあるので。」鈴：「……。これ付けて仕事に戻れるのかなあ。」Ａ：「…心配ですよね…」《 午前の報告 》指：「パウチ交換では鈴木さんの様子はどうでしたか？」Ａ：「少しストーマや皮膚の状態を見たりしていましたが、まだあまり受け止めができていない様子でした。」指：「今後どんなことが考えられそうでしたか？」Ａ：「受け止めができないと、今後のボディイメージの変化の受容ができない可能性もあると思います。…なんて返したらいいのか分からなくて…」 |

以下の課題１～３のうち、一つ以上指導案を検討してください。日案・週案どちらでも構いません。検討するにあたり、不足している情報があると思いますが、みなさんのこれまでの経験や想像で付け加えていただいて構いません。

* 課題１：レベルⅡ実習目標(１)

実習第１週のＡさんの様子と１年次の彼女の課題をふまえた上で、鈴木さんと援助的な人間関係を築けるような指導について検討してください。

* 課題２：レベルⅡ実習目標(３)(４)

実習第２週の様子から、Ａさんが鈴木さんの術後のアセスメントやケアを行う際の指導について検討して

ください。

* 課題３：レベルⅡ実習目標(４)(５)

実習第３週の様子から、Ａさんが鈴木さんのストーマの受容やストーマ管理のセルフケアを見据えた支援

を考え実施するための指導について検討してください。